

第1回社会保障審議会 人口構造の変化に関する特別部会	資料3-1
平成18年11月21日	

将来推計人口について

将来人口推計について

○ 将来推計人口は、社会保障・人口問題研究所が、国勢調査、人口動態統計、出生動向基本調査等の客観的データに基づき、おおむね5年ごとに将来の人口を推計したもの。

※ 戦後12回の将来人口推計を作成

○ 前回推計は、平成12年国勢調査等に基づき作成した平成14年1月推計であり、2050年までの人口を推計。

※ 参考推計として2100年までの人口を推計

※ 高位、中位、低位の3種類の出生仮定に基づき推計

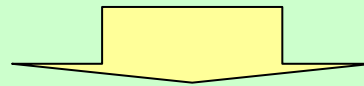
○ 現在、平成17年国勢調査等に基づいた新しい将来人口推計の作成作業が進められているところであり、今年末には新推計が公表される予定。

将来人口推計の基本的考え方

○ 将来人口推計は、仮定となる出生・死亡・国際人口移動について、その推移を将来に投影し、将来の人口の姿を計算したもの。

※ 人口学において確立されてきた国際的にも一般的な方法

○ これは、おおむね、少子化等の傾向が現状のまま推移した場合に、将来の人口の姿がどのようになるかを予測したものといえる。



人口学で確立された手法に基づく科学的で客観的、中立的な推計

- ・政策効果を織り込んだ政策目標とは異なる。
- ・社会・経済状況の将来の変動を織り込んだものではない。
- ・国民の結婚や出産の希望を反映したものではない。

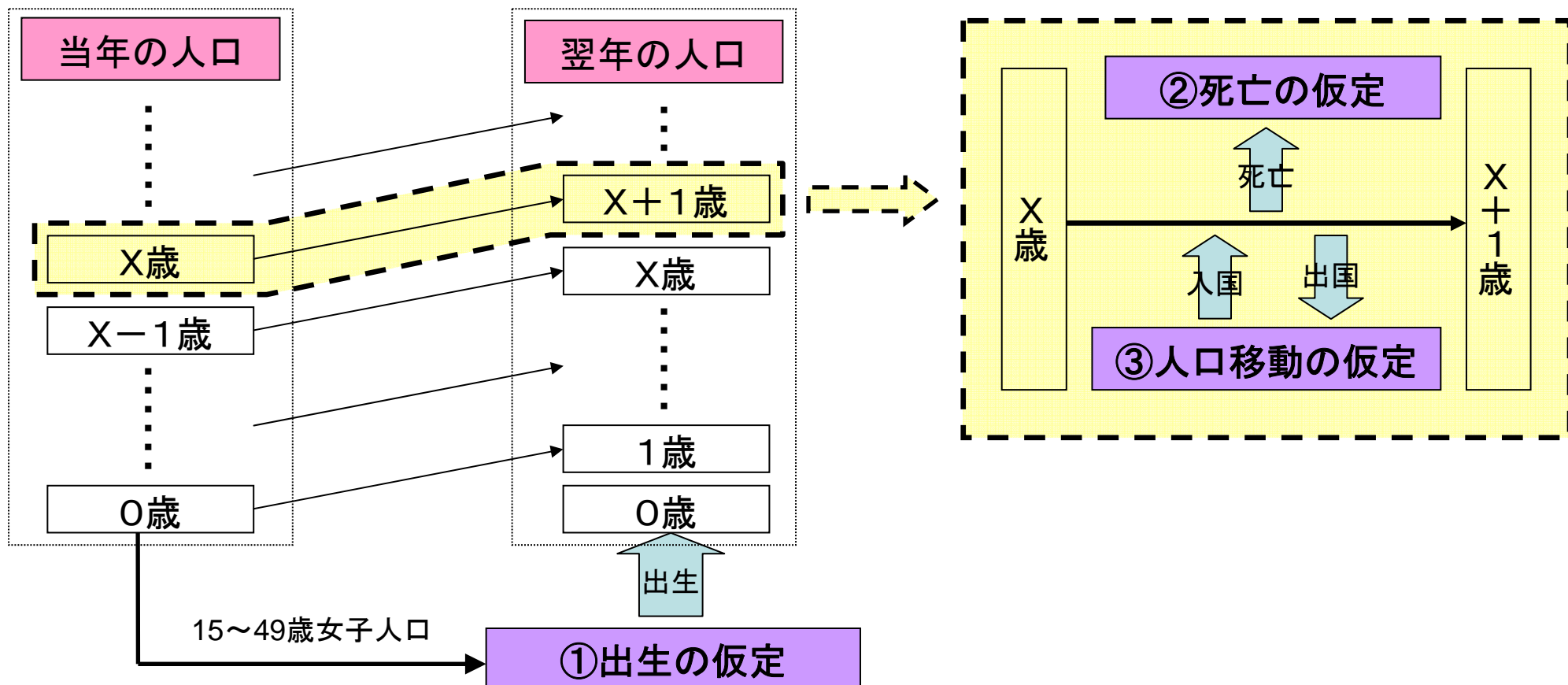
将来人口推計の計算手順の概略と必要な仮定値

足下の性・年齢別人口(国勢調査結果)を基に、

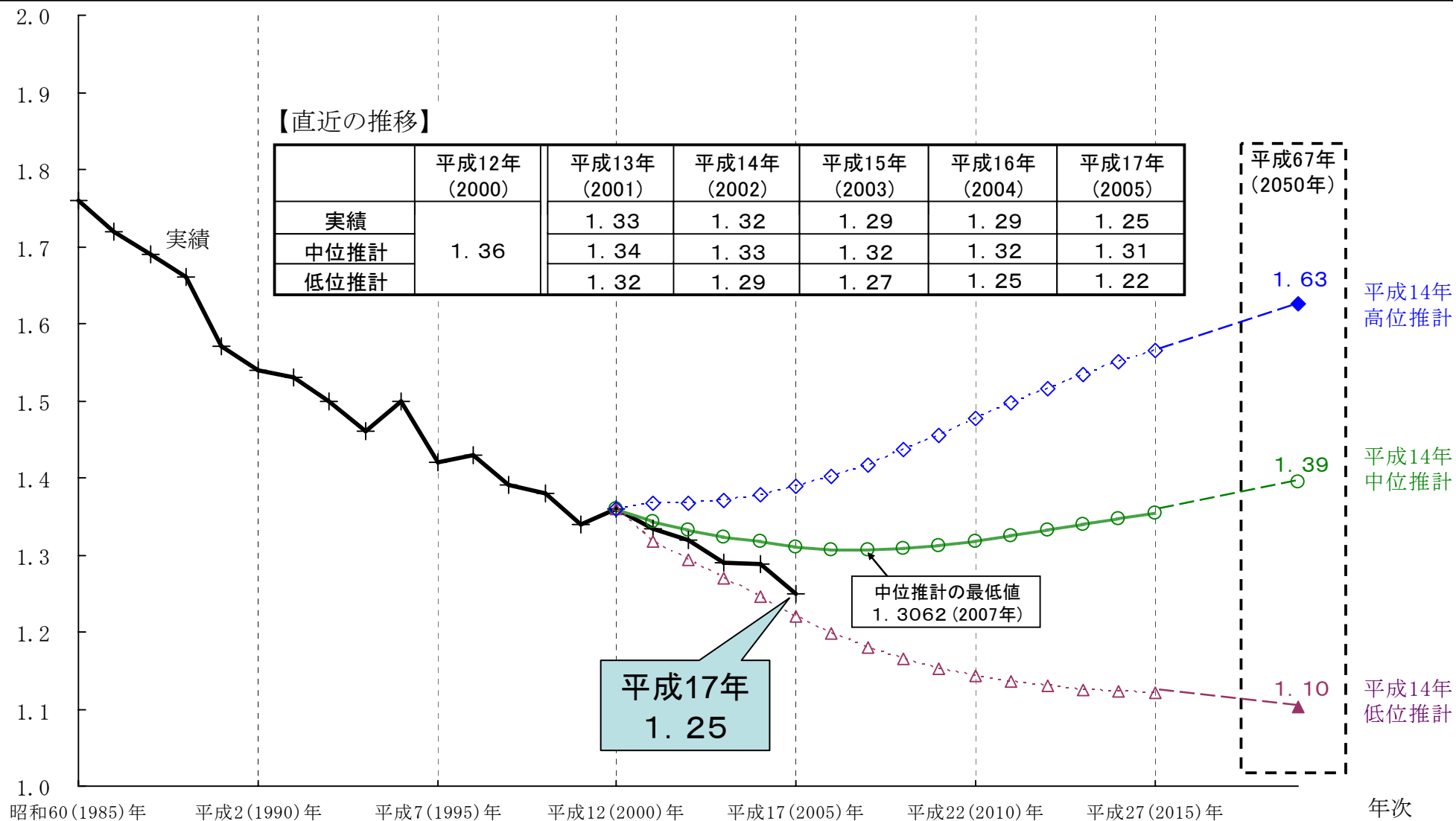
①将来の出生、②将来の死亡、③将来の国際人口移動
の仮定より、1年ずつ将来の人口(性・年齢別)を推計。

(※ ①~③の仮定は過去の推移を基に設定される。)

→ これらの仮定値が決定すると自動的に将来推計人口は計算される。



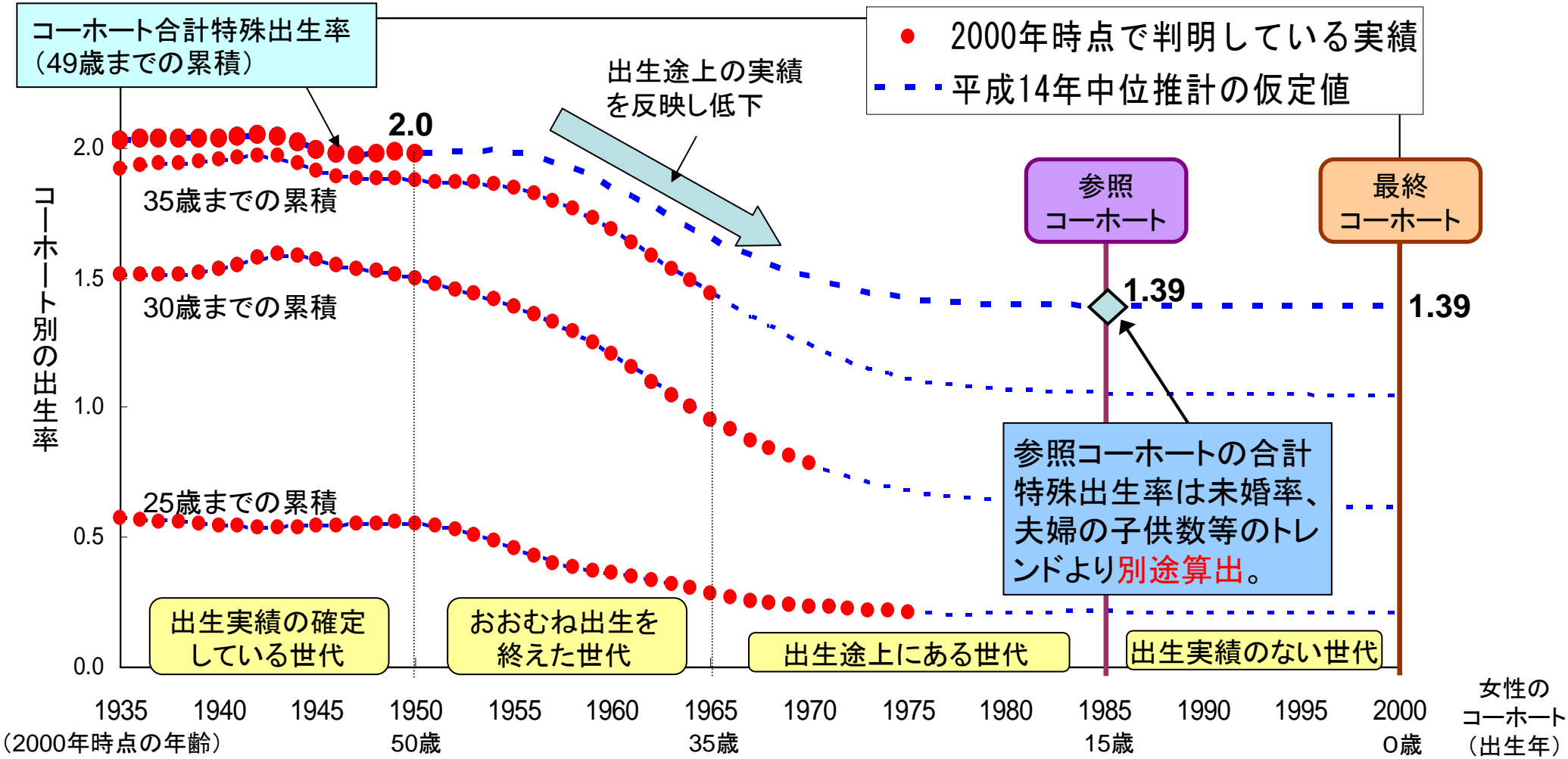
(期間)合計特殊出生率の推移と将来人口推計(平成14年推計)における仮定値



これまでの人口推計では、常に実績が中位推計を下回り低位推計に近い水準で推移してきたため、甘い推計との批判がある。

出生率の仮定設定の基本的考え方(平成14年推計)

出生率の仮定は、コーホート別(出生年別)の出生等の推移を将来に投影して設定。
 コーホートとは：出生年が同じ人口集団を指す。



コーホート合計特殊出生率の仮定値は、通常の(期間)合計特殊出生率の仮定値に見られるような反転はない。

参照コーホート(1985年生)の出生仮定設定の考え方(平成14年推計)

参照コーホートの合計特殊出生率は以下のように分解される。基本的には、それぞれの要素についてコーホート別(出生年別)の推移を将来に投影し参照コーホート(1985年生)の仮定値を設定。

コーホート合計特殊出生率 (1.39)

※ ()内の数値は平成14年中位推計のもの

$$\begin{aligned}
 &= (1 - \text{生涯未婚率 (16.8\%)}) \times \text{夫婦完結出生児数 (1.72人)} \times \text{離死別効果係数 (0.971)} \\
 &\quad \text{結婚する女性の割合} \quad \longleftrightarrow \quad \text{夫婦の最終的な平均出生子ども数} \quad \longleftarrow \quad \text{平均初婚年齢 (27.8歳)} \\
 &\quad \text{離婚、死別の影響度}
 \end{aligned}$$

夫婦完結出生児数はさらに次の要素に分解される。

$$\begin{aligned}
 \text{夫婦完結出生児数 (1.72人)} &= \text{期待夫婦完結出生児数 (1.89人)} \times \text{出生力低下係数 (0.911)} \\
 &\quad \text{晩婚化の影響から推測される最終的な平均出生子ども数} \quad \quad \quad \text{晩婚化以外の要因による若い世代の出生力の低下割合}
 \end{aligned}$$

※ 国勢調査、人口動態統計、出生動向基本調査のデータを基にそれぞれ仮定値を算出

【参考】晩産化の進行に伴う(期間)合計特殊出生率反転のメカニズム

出生コーホート (出生年別の人口集団)		経過年数																(コーホート) 合計特殊出生率	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年		17年
安定期世代	第1コーホート(世代)	○	○																2
	第2コーホート(世代)		○	○															2
	第3コーホート(世代)			○	○														2
	第4コーホート(世代)				○	○													2
晩婚化世代	第5コーホート(世代)					→	○	○											2
	第6コーホート(世代)						→	→	○	○									2
	第7コーホート(世代)							→	→	→	○	○							2
	第8コーホート(世代)								→	→	→	→	○	○					2
少産化世代	第9コーホート(世代)								→	→	→	→	→	○	△				1.5
	第10コーホート(世代)									→	→	→	→	→	○	△			1.5
	第11コーホート(世代)										→	→	→	→	→	○	△		1.5
	第12コーホート(世代)											→	→	→	→	→	○	△	1.5
(期間) 合計特殊出生率			2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.5	1.5	1.5	

○ 出産 (出生率1.0相当)
 △ 2人に1人が出産 (出生率0.5相当)
 → 出産年齢の上昇(晩産化)

女性が一生に生む子供数に相当

晩産化に伴い、女性が一生に生む子供数は減少

通常の合計特殊出生率

晩産化により低下

晩産化の進行が止まり反転上昇

晩産化の進行中、(期間)合計特殊出生率は、一時的に、女性が一生に生む子供数よりも低い水準に低下

【参考】年齢階級別の出生率の推移

